

「鳴く虫観察会」(平成30年9月8日開催)

- ・講師 杉本 武さん
- ・参加者 39人

1 事前説明

野外観察の前に杉本講師から鳴く虫について説明がありました。コオロギ類やキリギリス類は、翅(はね)をこすり合わせて音を出します。また、そのためコオロギ類の翅の裏側はヤスリ状になっています。

鳴き方には種類があり、メスを口説く時の「誘い鳴き」やオス同士がけんかをする時の「威嚇(いかく)鳴き」など、目的により鳴き方が変わります。また、多くの虫には鼓膜(こまく)があり、コオロギ類やキリギリス類は前足に鼓膜があります。鳴く虫にはコオロギとキリギリスの仲間がありますが、全国にはそれぞれ約120種、静岡県にはコオロギ類が47種、キリギリス類が38種います。コオロギ類は卵で冬を越し、翌年の春に幼虫となり、8月頃に羽化して成虫となります。コオロギ類は顔の形や模様によって種類が見分けられ、なかでもミツカドコオロギは顔に特徴があり、その顔は刃物で切ったように平面的で、左右上下が十文字に張り出しています。

2 野外観察

観察会はまだ明るさが残る夕刻から始まりましたが、耳を澄ますと色々な虫の鳴き声が聞こえてきました。周りが暗くなり灯りをつけると、足元にはコオロギ類がたくさん見られ、草むらの中にはカマキリ、バッタ、キリギリスの仲間やイトトンボ類なども見られました。また、木の上からはアオマツムシの声が聞こえてきました。

3 まとめ

ビジターセンターへ戻り、観察会で見つけた虫の種類をホワイトボードへ書き出したところ、全部で23種を確認することができました。講師が実際にクツワムシの翅(はね)をこすって鳴く音を出しましたが、クツワムシは鳴く虫の中でも特に声が大きく、一晩中眠れないほどの声で鳴くそうです。本日採集した鳴く虫を飼う場合には、容器は水槽を使い、土は入れずに新聞紙を丸めたようなものでも良いので、虫が体を隠す場所を作ることが大切であること。食べ物については、キャベツなどの野菜でどの虫も好物であることなどの説明がありました。

4 コオロギ相撲(すもう)

14頭のミツカドコオロギが参加してトーナメント戦でコオロギ相撲(すもう)を開催しました。コオロギ相撲は頭を付けて押し合い、勝負がつくと勝った方が勝ちどきを上げます。登場したコオロギは闘志があり、どの対戦も白熱した相撲が見られ親子で歓声を上げ観戦していました。決勝戦は子ども達の中の一人が代表で行司役となり対戦を仕切りました。

1. 事前説明



2. 野外観察へ出発



2. 野外観察



2. 野外観察



3. まとめ



4. コオロギ相撲 (すもう)

